

(二〇一一年度)

8 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は20ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
- 八、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
- 十、試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

一国の首都は譬へば一人の頭部の如し。各種の高等の機関ここに備はりて、各般の経営運動の発するところとなり、又帰するところとなる。此故に全国に対する首都の勢力は甚だ大にして、首都の状況の善悪は忽ち全国の状況の善悪となること、譬へば頭部の状況の善悪は直ちに全身の状況の善悪をなすが如し。首都の状況甚だ非にして其一国の運命甚だ旺盛なりといふが如きことは、万有るべからざるの道理なり。首都は実²に一国の運命の枢機のかかるころにして、単に一個人の住居若くは腰掛け若くは足溜り等として看るべきものにあらず。

(幸田露伴『一国の首都』、以下同じ)

冒頭にあるこの言葉は、露伴の時代には到底考えられなかった現在の東京の膨化と歪みに比して考えるとき、一層の重みをもつ予言に満ちている。つまり、首都の運命は一国の運命そのものにダイナミックに関わるという認識である。満州国の首都新京や「東京市」の都市計画に携わった後藤新平を別とすれば、こうした視点は、東京の都市計画に携わった近代の立案者、土木建設関係者や、現在の多分に情緒的な東京論者達には見られないものであり、そこに露伴の優れて実利的な思考方法が伺われる。

この本は、明治維新からちようど一世代を経た東京という首都の有するさまざまな側面を、江戸と比較対照しながら逐一論じている。論の結構は堂々としており、かつどの細部にも「江戸ッ児」たる⁴気概と愛情が脈打っている。露伴は、そこからまだ「普請中」(森鷗外)の東京の本質に狙いを定めるのだ。

巻頭近くに次のような言葉がある。

詩人及び小説家等は、ややもすれば都府を罪惡の巢窟の如く見做し、村落を天国の実現の如く謳歌す。何事につけても観⁵

察力のみ鋭敏に過ぎて、施為の能に乏しきを常とする詩人小説家等の、都会を好む能はずして、村落を愛するに至るべきは勢ひ然るべき事ながら、悪しきものをば悪ししとのみして、抛ち捨てんは仁恕の道にあらず。況や吾人は強ち都会を悪しとのみすべき理由を有する事なきをや。吾人は決して一派の詩人小説家等に雷同して、無責任に都会を厭悪嫌忌し之を嘲罵するのみに終るべからず。観察の力の鋭敏なる人よりは其観察の結果を藉りて、而して吾人が考量の資となし、吾人が執るべき改善の方法を定むべきのみ。(傍点引用者)

幸田露伴のスタンスが鮮やかに示されている文章である。露伴は、観察にのみ優れ、「施為の能に乏しきを常とする」詩人小説家を揶揄しているが、これは前年の『國民之友』に『武蔵野』(『武蔵野』はこれらをまとめて後年出版された)を書いた国木田独歩のことを指しているのであろう。ここには都会に対する全く対照的な考えが出ているが、露伴はあくまで都会を「罪惡の巢窟」とは見ない。

また露伴は独歩のように「郊外」には行かないのだ。江戸の面影がといえざるのをまともに見ながら、その未成の東京の墮落をつぶさに観察し、しかもこれが「一國の首都」としてなんとか風格あるものにならないかという方向に論を進める。その意味で、露伴は独歩以来の「小説家」という範疇には入らない作家である。

⁶ 露伴は、当時の詩人小説家のように「郊外」の自然を悠長に愛でていることはできなかった。彼の眼前にあるのは、三河武士と甲州武士によって起された徳川三百年の繁栄幸福を踏みにじって、薩長土肥や西南地方や京都の人士らが社会の動乱に乗じて功利を求め、帝都に対するしつかりした自覚もないまま、いつの間にか「土着」し、東京の建設者に成りおおせて江戸を破壊尽したという事実である。露伴が薩長の藩閥政府や元老らに対し憤りをもっていたのは、『一年有半』で中江兆民が批判していたのと同じ理由からである。

首都はなにによって首都なのか、なにが東京を東京たらしめるべきかという問いは、必然的に都心と郊外とをいかなる方法

および規矩によって確定するかという問いを引き出す。この露伴が発した問いかけは、現在の東京においてもなんら解決されていないところを見れば、先駆的な問いだった。

このことについては、独歩も同じ頃、『武蔵野』の中で問題にしていたが、独歩が東京というトポスに地理的な境界線を引くことに重点を置いて、「自然」を発見したのに比し、露伴は首都が首都として機能してゆく上で引くべき生命線を考えていたところに両者の違いが露呈されている。⁸

都は其實質をして豊富堅厚ならしむべき也、都外は其自然と人間との関係をして適度に保たしむべき也。ここに於て都と都外とを分つところの限界線の仮定若くは確定の必要を見る。

こうした発想は独歩や、柳田國男、田山花袋らが依拠した『抒情詩』（明治三十年）のグループには求めようとしても求められなかった。彼らの関心は、独歩の言う「山林に自由存す」の方にあつたのだから。また、はるか後年の『明治大正史世相篇』を見ても、柳田國男には露伴のような都市論的視点は稀薄だった。

また、露伴が問題にした西欧や中国の都市が有する城郭の有無に関する議論も彼らには関係がなかった。もともと、いまさらそうした城郭を東京につくることも不可能だったろうが。一人、文学者の中で露伴は奮闘している。それも、観念的な政策論でもなく、江戸情緒になぞむ論でもない。「江戸ッ児」として骨の髄まで生きてきた露伴もまた、多くの生活者と同様この都市で生きていかざるをえず、そのためにはここで取り上げている問題は自分にとつてもことごとく緊急な問題だった。露伴の願ひは、この首都の実質が「豊富堅厚」であることである。

（樋口覚『三絃の誘惑——近代日本精神史覚え書』より）

〔注〕『一年有半』…自由民権思想家、中江兆民（一八四七—一九〇二）が病をおして書いた、思想、政治、文章など、様々な問

題に関する批判書。

トポス：場所。

問一 傍線部1の意味としてもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 首都の状況が非常に活発で、その国の状況は非常によくない。
- b 首都の状況が非常に活発で、その国の状況も活況を呈している。
- c 首都の状況が非常によくないのに、その国の状況は活況を呈している。
- d 首都の状況が非常に悪く、かつその国の状況も非常によくない。

問二 傍線部2の意味としてもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 一国にとって首都は、人体にとっての頭部のような関係にある。
- b 首都は、全国に対して強い影響力をもつ。
- c 首都は、さまざまな活動が始まり、その成果が集まるところである。
- d 首都は、一国の進路を左右する機能をもつ。

問三 傍線部3の具体的なあらわれとしてもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 首都を個人の生活空間としてとらえている。
- b 首都の在り様を、一国の有り様と切り離せないものとしてとらえている。
- c 首都の在り様を、土木建設にかかわる設計の対象としてとらえている。
- d 首都の在り様を、江戸との比較対照においてとらえている。

問四 傍線部4について、露伴の「江戸ッ児」たる気概と愛情が東京に対してどのようなあらわれていると考えられるか。不
適切なものをも一つ選べ。

- a 江戸の面影がつかえさるのを見て、悲哀を感じている。
- b 独歩のように都会を罪悪の巢窟とみて、郊外へ行くということをしなない。
- c 東京の墮落した現状を傍観せず、改善の方法を見定めようとしている。
- d 無責任に都会を嫌悪し、嘲るだけの詩人小説家の態度を非難している。

問五 傍線部5の意味としてもっとも適切なものをも一つ選べ。

- a 詩人小説家等は、観察力が鋭敏なので、都会の欠陥が目につき、しかも、それを改善するような行動力に欠けるので、必然的に村落に愛情を覚えることになる。
- b 詩人小説家等は、観察力が鋭敏なので、都会の欠陥が目につき、しかも、村落の良さも鋭敏に感知するので、必然的に村落に愛情を覚えることになる。
- c 詩人小説家等は、観察力が鋭敏なので、都会の欠陥が目につき、都会を好きになることができなないが、村落には自然に引き付けられ、愛情を覚える。
- d 詩人小説家等は、観察力が鋭敏なので、都会の欠陥が目につき、しかも、村落の良さも鋭敏に感知できるのだから、村落に愛情を覚えるよう努めるべきである。

問六 傍線部6について、筆者がこのように考える理由は何か。もつとも適切なものを一つ選べ。

- a 江戸が破壊しつくされ、かつ東京はまだ未完成であるから。
- b 徳川幕府を滅ぼした薩長土肥の人士らが、いつの間にか東京の建設者に成りおおせているから。
- c 帝都に対する自覚もないまま、江戸の面影を踏みにじり功利を求める藩閥政府に対し憤りをもっていたから。
- d 罪悪の巢窟となった東京に、なんとかして一国の首都としての風格を与えたいと焦っていたから。

問七 傍線部7の意味として不適切なものを一つ選べ。

- a 独歩は首都としての東京を、武蔵野の自然との対比においてとらえた。
- b 独歩は都心との対比において、自然を自由な世界としてとらえた。
- c 独歩は都心の地理的な境界線のかなたに自然を見た。
- d 独歩は地理的な境界線を引くことで、都市を一つの有機体としてとらえた。

問八 傍線部8の意味としても適切なもの一つ選べ。

- a 露伴は首都の機能を、一つの生命体としてとらえた。
- b 露伴は首都が豊かにしつかり機能できる適正規模を考えたと。
- c 露伴は首都が実質的に豊かになることを、緊急の課題だと考えた。
- d 露伴は城郭の存在を、首都の機能にとって不可欠なものと考えたと。

問九 傍線部9の意味としてもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 「郊外」の自然との対比のなかに都市をとらえ、論ずること。
- b 首都のあるべき姿を論ずること。
- c 東京に江戸の面影を探り、論ずること。
- d 過去・現在の世界の都市を比較検討し、論ずること。

問十 本文の内容に合致しないものを一つ選べ。

- a 露伴は東京が一国の首都として、どうあるべきかを論じている。
- b 露伴による首都の状況と一国の運命との相関関係の指摘は、現在の東京の巨大化と歪みによって、一層その切実さを増している。
- c 露伴と独歩では都市というものとのとらえ方が大きく違っている。
- d 露伴と独歩とは、首都への自覚を欠いた政治家に対し怒りを持っている点において共通している。

二

以下は明治十八年に『東京經濟雜誌』に掲載された田口鼎軒「意匠論」から、日本語の文体について論じた部分を抜き出したものである。これを読んで、後の問に答えよ。

蓋し言語は思想を顕はすものにして文章は則ち言語を記するものなり。故に如何なる想像と雖も心に浮み出でたらんものは必ず言語に顕はすを得べし。然らば則ち何ぞ之を筆に記すべからざるべしことあらんや。

世或いは文学の趣味を以て文体の古雅なると同視するものあり。去れば平凡なる思想をも古言若くは漢文を以て記すれば雅なるが如く思惟し、高尚英邁なる想像をも俗言を以て記すれば味なきが如く思惟するものあり。余、近日文人詩客和学者など云へる輩が記する所の詩文を見るに、其の想像の極めて淺薄なるを思ふなり。唯々其の詩文の意容易に解し難きが為に愚者視て以て卓絶と稱し、自己亦視て以て傑作と為すに至ることなり。若し夫れ其の主意を知解せしめよ、其の意匠必ず端歌都々一などにも劣るものあるべし。蓋し文学の味は文体にあらずして其の意匠にあり。若し其意匠を貴ばんや、普通の言語を以て記するこそ最も自由なるべけれ。然らば即ち文学の趣味は文体にありとの愚想は速に打破せざるべからざるなり。既に世俗の言語を以て文章を記するに至らんや、余は我文学の更に進歩の端を開かんことを思ふなり。夫れ我国従来の文章に於いて美人勇士山川風月等の有様を記するや、皆な陳腐なる套語ありて、勢之を用ひざるべからざるの有様あるべし。譬へば美人を称するには必ず衣通姫小野小町を挙げ、勇士を称するには弁慶朝夷奈を挙ぐるが如し。而して其の形容の語、皆数百年來の套語ありて存せり。是れ文体の然らしむるものなり。然れども若し吾人にして普通言語を用ひて人に対して美人勇士山川風月等の有様を語るとせんや、必ず此の套語を用ひずして新思想を發するや知るべきなり。余是を以て常に我文章の未だ全く言語と一致せざるを歎ずるなり。

然りと雖も、斯く言ふ余と雖も、尚ほ未だ全く言語と同一なる文章を記する能はざるなり。夫れ「せざるべけんや」と云ひ、「あらずや」と云ふが如きは普通の言語にあらず。従ひて亦た善く感覚を与ふるの語にあらざるなり。故に余常に之を改めんと欲し、近時に於ては此の文末の教語を除くの外は、之を口に語りて他人に解すべきの言語を撰べり。是れ亦た私に注意せし所

なり。而して彼の「せざるべけんや」を改めて「せねばなりませんまい」と云ひ、「あらずや」を改めて「ありませんか」と云ひ、「なり」を改めて「ござります」と云ふに至りては、余輩は我文章を羅馬字ローマ字に改めたる後にあらざれば、十分に其の目的を達する能はざることを信ず。故に余は羅馬字会を賛成す。何となれば真正の文学は文章言語と同一に至るにあらざるよりは期すべからざればなり。

〔注〕 端歌…近世に流行した三味線を伴奏とする短い歌詞のうた。

都々一…七・七・七・五の四句から成る三味線歌曲。

套語…常套語。

衣通姫…『古事記』『日本書紀』に登場する伝説上の女性。容姿の美しさで知られる。

朝夷奈…朝比奈三郎義秀。鎌倉前期の武将。勇猛かつ豪力無双と伝えられる。

羅馬字会…日本語の表記にローマ字のみを用いようと主張した団体。明治十七年に結成された。

問一 傍線部1はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 世間には、時として文学作品の持つ趣を歴史上の題材に求める風潮がある。
- b 世の中の状況や文学に対する趣味が原因で、現在の文体をいにしえの文体と同一視する者がいる。
- c 世の中には文学を愛好する気風のために、古語や漢文を用いる文体を雅やかなものと見る人間がいる。
- d 世間には、文学の持つ味わいを、その文体が古風で上品であることと同一視する傾向がある。

問二 傍線部2について、以下のA・Bに答えよ。

A 「若し夫れ其の主意を知解せしめよ」とは、どのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a もし作品が基本に据えた文体を理解させようとするなら
- b もしその作者たちの意図をあらかじめ知っていたなら
- c もしその作品の中心となる思想を悟らせたなら
- d もし作者たちが自分の作品の内容を了解するよう強いるのなら

B 「其の意匠必ず端歌都々一などにも劣るものあるべし」と筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 自分の作品を自画自賛するだけで、その文体が端歌や都々一に劣るものも多く見られるから。
- b 難しい古語や漢文によって記すばかりで、そこに趣向が認められない浅薄な作物が実際に存在するから。
- c 伝統的な芸能ほどには、文人・詩客・和学者たちの詩文はスタイルの工夫を行っていないから。
- d 創作の意図と執筆のバランスが悪いため、容易に理解できない作品が世の中には多くあるから。

問三 傍線部3はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 文体の新しさを追求するなら、平凡な語句を使用する自由も認めなければならぬ。
- b 庶民の用いる俗語を用いることこそが、もっとも高尚な思想を盛るにふさわしい方法である。
- c 世間に広く通じる言語を使えば、型にはまることなく、もっとも自由に内容上の趣向を凝らせるはずだ。
- d 文学の価値を文体に求めるためには、だれもが理解できる平易な言語を使用する必要がある。

問四

傍線部4のように筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a 文学の味わいはその内容上の工夫にあるのだから、内容を顧みず、ただ従来の文体を墨守することは、その工夫の進歩を阻害する結果を招くから。

b 文学に対する好みをその内容ではなく文体を理由に語ることは、かたよった文学観に立脚していると考えられるから。

c 思想を自由に表明することが、新しい時代にはもっとも貴ばれるべきことであり、文体に対する注意は、これからは不要であると判断されるから。

d すでに俗世間の言語を用いた文章が普及しはじめているため、従来の文体を捨てなければ、文学の文体が混乱を来す状況に至っているから。

問五

傍線部5はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a つまらない思いつきの語句であるにもかかわらず、作者によってはついそれを使ってしまう状況。

b もはや面白みの無い古語でありながら、時代的な制約から常にそれを使わざるをえない状況。

c すべてにありきたりの使い古された文句が存在するため、必然的にそれを用いなければならぬ状況。

d 時代にそぐわない表現であっても、当たり前のようにみながそれを使っている状況。

問六 傍線部6のように筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a 新しい時代には新しい文章の題材が必要だと自分は考えるが、いまだに小野小町や弁慶などの昔ながらの題材を例に挙げなければならないのが現状だから。

b 自分なら新しい時代に応じた思想を、現在広く用いられている言語を用いて表現したいと考えるが、実際には、従来の伝統的な表現に従った文章を用いざるをえないから。

c 自分の目指すところが旧来の文体の打破にある一方で、その主張がなかなか世間に届かず、理解されないのが不満だから。

d 伝統的な文章表現の影響力は強く、自分が少しばかり努力しても、俗語を用いた文章では、その内容を読者に受け取ってもらえないから。

問七 傍線部7の「全く言語と同一なる文章」を筆者はどのようなものと考えているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 新思想を語るに適した言語を十分生み出すことができる文章。

b 漢文の影響をすべて排除した、純粹な和文を元とした新しい文章。

c 卑俗な日常会話の話しぶりを敢えてそのまま再現した親しみやすい文章。

d 文字による表記が無くても発音するだけで通じるような、話し言葉を土台とした文章。

問八 次の文章の中から、本文における筆者の主張と合致するものを二つ選べ。

- a 我々の思想が話し言葉を元として頭の中で組み立てられるものである以上、それを古語や漢文の表現に置き換えず、そのまま文章として表現することは、原理的に可能なはずである。
- b 高尚な思想を文章として記すには、古語や漢文の使用が必要で、俗語を用いてこれを記しても、その意図するところは十分に伝わらない。
- c 「せざるべけんや」や「あらずや」は、一般的な表現ではないため、これを広く世間に通じる表現に改める作業を既に実践し始めている。
- d まず文学作品から話し言葉と書き言葉の一致を試み、次に実用的な文章の文体を改革していくのが良策である。
- e 羅馬字を用い、漢字や仮名を捨てれば、完全な話し言葉と書き言葉の一致が可能となる。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「芸術のための芸術」の考え方は、それ自体まちがったものだが、日本の文学界には、それが生ぬるい形でうけつがれ、伝統的な世捨人の観念と野合して、文学者とは日常の社会の外に逃げ出してしまつて、社会には何の責任もたず、勝手気ままなことをしていてもよい人間（つまり伊藤整氏のいわゆる「逃亡奴隷」だ、という考え方が一般的になつてしまつた。まあ文士のことだ、仕方がないさ、というようなことを、みんな平気でいつている。これは文学者を昔の芸人と同じように見なしていることであつて、文学者への侮辱である。西洋では文学者に「人生の教師」といった称号が与えられているとき、いまなお文学者を社会外存在と見なし、その社会的責任などということを用ひるのは、ヤボだというような傾向がつよいのは、日本の文学界がいかに後れた段階にあるかを示すものである。日本ではフランス文学が、外国文学中もつとも愛好されていながら、その基本的性格といつてよい社会性などということが、もう一つの特徴である明快な論理性とともに、いままでいっこうに理解ないし撰取されようとしなかつたのは、日本文学にとつてきわめて不幸なことであつたが、それほど没社会的な昔からの文学観が、なお支配的なのである。

いまのべたような従来の日本の文学観からすると、文学作品は没社会的な作家の秘密のいとなみというふうと考えられ、したがつて、文学作品と社会との関係あるいは文学教育などという言葉はヤボであるのみでなく、ナンセンスにさえ聞えるかもしれない。しかし、世界のすぐれた文学のうちには、つよい社会的関心によつて書かれたものが、むしろ多いのである。また、作品がいかに社会などということを見無視した作家によつて書かれたにせよ、一たん作品として印刷されて世の中に提出された以上、それが社会における一つの客観的な共有物となることは否定できない。したがつて、作家がいかに没面をつくらうと、社会はこれを自由にみずからの立場において、つまり社会的に処理してよいのである。

近ごろまで日本では、作品²が問題にされるときは、いつも作家の創作面に過度に重点がおかれ、読者の享受面³がそまつに軽んぜられる傾向がつよかつた。そのことは従来の日本の文学評論のあり方を見れば明らかである。そこでは、もっぱら作者の

意図と作品におけるその成功度の探究に力がそがれるが、社会人の代表として、その享受を基盤として研究をすすめること、たとえば一個の小説を読むことが、読者にどのような喜びと悲しみを与え、どのような経験を形成するか、を示すといったようなことが、ほとんど行なわれなかった。こうしたことが、いっこうに怪しまれなかったのは、日本における文壇文学の読者層の大部分が青年、特に文学青年によって構成されており、また一方、文学雑誌などの編集が文学青年的人物によって、なされることが多かったことと密接な関係をもつと思われる。彼らは文学を、健全な社会人としてではなく、何とかして文学者になりたいという欲望——したがって既成文学者に対する劣等感のごときもの、をもつて読みまたは編集する傾向をもつたろうからである。そういう人々にとつては、文学者とギルド的關係にある批評家たちによる文壇のゴシップ的雑談や、創作の秘密といった神秘めいたいまわしも、興味があるかも知れないが、そうしたものは本当の文学の享受とは無関係なものである。

⁴ 文学作品は、それ自体として独立した客観的な一つの「もの」である。近代リアリズムに立つ小説は、とくにそうである。だから、その作品を作者がいかなる状況で、いかにして書いたか、またその苦心などを知ること、もちろん悪いことではないが、それらは作品享受のために不可欠な前提条件ではない。つまり、すぐれた作品は、そういうことを何も知らずに、直接ぶつつかってわかり、また味わえるはずなのである。そういうふうにして社会人が、作品からじかに受けとる感銘がどういものであるかということは、もつと大切にかえりみられなければならない。そうした社会人の感銘と評価にもとづいて、文学⁵の社会性ということが当然考えられてくる。そしてそこから、人間形成に役立つものとしての文学と国民教育との結びつきの問題が出てこなければならぬ。もちろん、その文学教育ということは、芸術至上主義のない文壇的であつてはならないが、同時に、せまい意味での「教育的」⁶であつてはならない。文学的でなければならぬ。つまり、既成道徳に追従しているような作品のみを教えるということでは決してなく、第二章でのべた意味でのすぐれた文学を、つまり、われわれの心をより人間的にすることによって、今日のわれわれの生活をより充実せしめるとともに、明日のよりよき生活をつくり出す始動力となる構想力^{イマジネーション}をつちかうものとしての文学を、選び与え、その正しい豊かな読み方を指導するということである。

伊藤整：日本の評論家・作家、一九〇五～一九六九。

第二章でのべた意味でのすぐれた文学：著者は第二章ですぐれた文学の特徴として新しき、誠実さ、明快さ、道徳との関係をあげている。

問一 傍線部1の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 日本文学は芸術としては生ぬるい形でしか実現していないので、没社会性を徹底すべきだとする文学観。
- b 文学者を芸人と同じように見なすことに反対し、文学者に「人生の教師」の称号を与えようとする文学観。
- c 日本の文学界の遅れを十分自覚したうえで、文学者の没社会性に言及するのはヤボであるとする文学観。
- d 文学者とは社会的責任を放棄し、自由に創作に没頭する世捨て人であってよいとする文学観。
- e フランス文学のもつ社会性を模範に、文学者は創作を通して社会活動に没頭すべきであるとする文学観。

問二 傍線部2について、「作品」はどのように研究されるべきなのか。本文の論旨にもっとも近いものを次の中から一つ選べ。

- a 作者の表現がいかにすぐれているかを問題にするよりも、作者がどのような目的をもって作品を書いたのかを探索するべきである。
- b その作品が読み手にどのような経験と影響を与えるのかを研究するべきである。
- c 作者が何を訴えかけたいのかということよりも、どのような読者層に訴えかけたいのかを探索するべきである。
- d その作品がどのような社会的関心のもとに書かれたのかを研究するべきである。

問三 傍線部3の理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 日本では、読者の享受する経験に焦点をあてるより、むしろ読者が社会人としていかに作品を社会的に理解できるかを重視すべきであるから。

b 日本で作品が問題にされるときには、作品の読み手における情感的享受よりも、社会の共有物としての作品の客観的理解が重視される傾向にあるから。

c 日本における文壇文学の読書層の大部分は、文学者へのあこがれから、作品や作者の背景に興味を持つ傾向があるから。

d 日本では、文学青年的人物に代表されるように、文学者になる欲望をもつ人々がまず自分たちの享受のために文学の評価をしてきたから。

問四 傍線部4の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 文学作品は客観的な社会的性格を帯びながらも、読者一人一人の心に個別に語りかけるという独立性をも有している。

b 作品のリアリズムを社会性から考察することで、作者の状況や苦心などを含む作品それ自体のありかたが独立した客観的な「もの」として示される。

c 文学作品は読者が自分自身のかかえる問題とは切り離れた作品そのものとして、客観的に味わうことのできるものである。

d 文学作品を享受するために、背景知識は必ずしも必要ではなく、むしろ作品そのものからじかに感銘を受けることの方が重要である。

問五 傍線部5の「文学の社会性」について、本文の論旨に合致しないものを次の中から一つ選べ。

a 文学作品は、印刷物として社会に提示された以上、世の中の客観的視点にさらされ、一つの共有物として社会的に評価されることになる。

b 一度世に出た文学作品の内容を社会が自由に受け止めるということは、作者がそれを望むか望まないかにかかわらず行われる。

c 作家が社会を無視して作品を書いたとしても、作家自身が社会の関わりの中におかれるかぎり、彼の作品はすぐれた社会性を示すことになる。

d 世界のすぐれた文学作品は作家の秘められた内的興味を描いたものというよりも、むしろ社会への強い関心から書かれたものが多いといえる。

問六 傍線部6の意味として、適切でないものを次の中から一つ選べ。

a 作品が既存の道徳観によって規定されること。

b 作品の意味を規定する構想力をもつこと。

c われわれの生活の糧となる内容をもたない教え。

d 人間形成に役立たないたんなる教化の手段。

問七 本文の論旨に合致するものを次の中から二つ選べ。

- a 文学教育が、よりよき生の源泉としてすぐれて教育的であり得るのは、読者の人間形成という観点から文学を教授し、作品の真の社会性を示すことにもとづく。
- b 日本では論理性と社会性にすぐれたフランス文学が、外国文学中もっとも愛好されているので、正しい人間形成のために、フランスの文学教育の方法を取り入れるべきだ。
- c 後れた段階にある日本の文学界を立て直すには、真の文学の享受を妨げる文壇的批評を排し、西洋のように文学者に「人生の教師」の称号を与え、その社会性を示すべきだ。
- d それ自体として独立した客観的な一つの「もの」である近代リアリズムの小説は、誰でも味わうことができるので、日本の文学教育はこのような作品を選び与えるべきだ。
- e 没社会的文学が支配的な日本での文学教育の目的は、読者が文学者の社会的責任を理解することを通して、その作品を享受し得るようにすることだ。
- f 日本の文学評価は、文壇を中心に歪んだ作者偏重主義に陥っていたが、読者の人間形成という観点から文学と教育の結びつきを考え直すべきである。
- g 文学の没社会性を解明することは、その社会的意義を明らかにすることにつながり、「芸術のための芸術」としての可能性を新たに文学に与えることになる。

